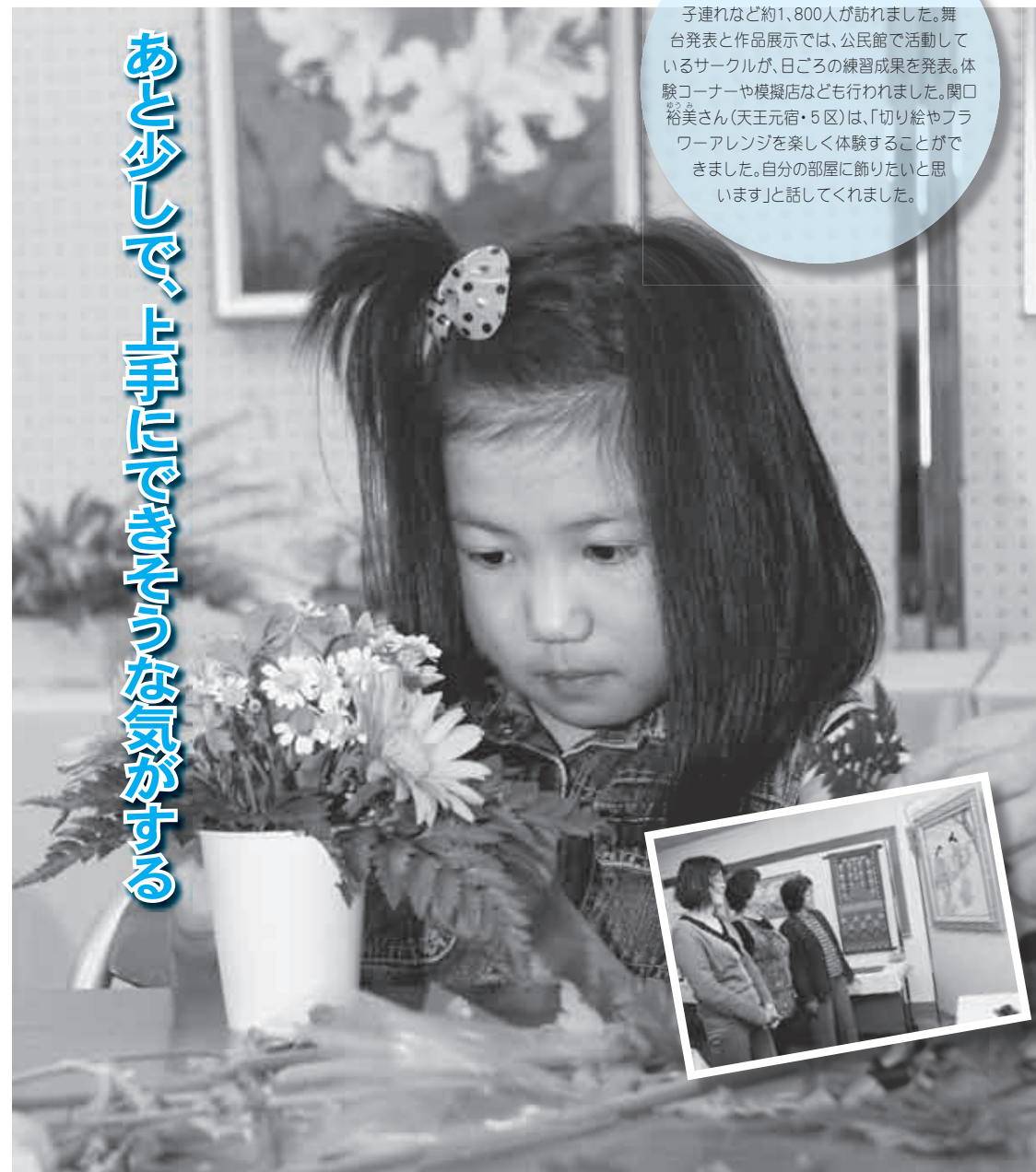


PHOTO PALETTE



5月15・16日、邑楽町公民館まつりが行われ、会場内には親子連れなど約1,800人が訪れました。舞台発表と作品展示では、公民館で活動しているサークルが、日ごろの練習成果を発表。体験コーナーや模擬店なども行われました。関口裕美さん(天王元宿・5区)は、「切り絵やフラワーアレンジを楽しく体験することができました。自分の部屋に飾りたいと思います」と話してくれました。



あつむつで、上手にできるとな気がする



右見て左見てまた右見て



5月12日、中野小学校で3年生自転車教室が行われました。自転車を使った正しい乗り方やビデオ上映による交通ルールを学びました。遠藤彩さん(前原・4区)は、「正しい交通ルールを学ぶことができたので、自転車に乗るときには気をつけて乗りたいです」と話してくれました。

郷土の歴史を再発見



4月28日、長柄公民館で細谷清吉さん(大泉町在住・篠塚出身)の講演会が行われました。これは、歴史的な見方から郷土を見直すきっかけにしてほしいと、あすへひとこと編集委員会が企画。細谷さんは、狸塚などの地名の由来や、長柄神社と長良神社などの講演を行いました。

春の息吹を感じながら



4月26日、第31回おはようウォークが行われました。晴天に恵まれたこの日、子どもから大人まで約250人が参加。役場庁舎前から多々沼公園を往復するコースは、自然を満喫することができるので、参加した皆さんは、約6kmのコースを春の息吹を感じながら、気持ちよく歩きました。

町の歴史 連載三百四十三回 町の年代記

第45回

細谷清吉(歴史研究者)

細谷右馬助秀国(十二)は秀国の子孫(一)は細谷秀国入道弘林は、居住の東北に龍宮山(龍宮山)龍宮寺と龍宮神社を建立して、この地に没しました。尊卑分脈や新田族譜、その外によると細谷(歴)氏は、清和源氏源義家(八幡太郎)の嫡子義國の嫡男が新田義重で新田氏を称しました。新田義重(義兼)義房(義義)政氏(基氏)朝氏(義貞)となり、五代政氏の長男が細谷弥太郎國氏(又二郎秀氏)右馬助秀国となり、國氏は長男ですが、弟の基氏が本宗家の六代を継ぎました。

角川日本地名大辞典にも、新田義重の五世孫政氏の子國氏が新田莊細谷に住して細谷(歴)を名字としたとあり、秀国の子には勝直と勝清の二人があり、勝清については、尊卑分脈などに子孫が書かれています。勝直については、勢多郡新里村新川(現・桐生市)の善昌寺古記録の中に出てきます。善昌寺は大同年間の開基で、新田氏の家臣で新田義貞の執事であった船田義直が建立したと伝えられます。この太平山善昌寺において、正平五年(三三〇)七月十五日に、新田義貞公の十三回忌がひそかに営まれた。その席に細谷勝直が父右馬助秀国の名代として、私参して(いたす)ます。この古記は善昌寺三十一世(元)死が、応仁二年(一四六)三月、寺に伝わる旧記が乱雑になっていたものを整理書写したものです。新田義貞・脇屋義助・船田入道義昌を筆頭に新田一族二十名、四天王、新田十六騎外一般武士百二十五名の法名と俗名および私参者百八十余名が記されています。現存の古記は長さ七メートルの巻物で、その中に物語者といふ参者の名が入りまじり、北朝方の詮議をほばかて私参者にも法名がつけられています。この邑楽町に關係ある人名として細谷勝直・篠塚伊賀守・中野勝治の名が記されています。勝直の後も在地勢力として代々右馬助を称して聖澤・土塁・曲輪の整備拡充をはかり、赤城神社・三島神社・若宮八幡社などを建立して、館の守護神としました。その他西ノ根に藤師堂・篠塚城跡に毘沙門堂などを建立しました。それが今でも残っており、昔の面影をとどめています。昭和五十二年には、細谷館跡の調査があり、天目茶碗など出土。同五十五年五月には発掘調査が作成され、町の文化財にもなっています。



新川の善昌寺(桐生市)